ワクチン接種で免疫力が低下

コロナ蔓延以降、政府はワクチン接種を推奨してきた。だが、何度も接種を受けたのに、2回感染した人が後を絶たない。

「免疫に弱点のある人が一定数いるのも事実です。ワクチンを打っても抗体ができにくいとか、あるいは感染した後も抗体ができない人がいます。そういった免疫形成が苦手な体質の人は、複数回感染する可能性があるといえます」（二木さん）

ナビタスクリニック理事長で内科医の久住英二さんは、ワクチンの効果は限られるのではないかと指摘する。

「現在のワクチンは流行初期の武漢株が登場した際につくられたもので、現在流行しているオミクロン株に対応するものではありません。また、変異株は過去の抗体をすり抜ける特性も持っています。オミクロン株は感染力が強く、いまのワクチンでは感染予防効果は低いと考えていい」

政府はオミクロン株に対応する改良型ワクチンを、10月半ばから追加接種で使用する方針を固めた。2回目までの接種を終えたすべての人を対象に、接種を始める方向で準備するという。

政府は3回目、4回目、さらには5回目へと接種を推し進める。**だが、この「追加接種」が複数回の感染を引き起こす可能性が指摘されている。**

厚労省が発表した今年4月11日以降の調査結果によると、ワクチン未接種者と2回接種者の10万人あたりの新規陽性者数にはほとんど差がなかった。だが年齢層で区切ると、40代と60代、70代では未接種者より2回接種済みの人の方がコロナに感染していたという事実が明らかになった。

「現在接種しているワクチンは、もともと体に備わった免疫力を低下させる可能性があります。免疫力が落ちればコロナ感染の可能性が高まる。いまはまだ3回目接種のデータは出ていませんが、今後〝3回接種した方がコロナにかかりやすかった〟というデータが出る可能性もあります。**さらに、ワクチンを追加接種した人が複数回感染するケースも増えるのではないでしょうか。日本を含めたワクチン接種率が高い国ほど、再感染者が増えることも考えられます**」（小島さん）

感染予防の目的で接種したワクチンが原因で、複数回にわたって感染するとなれば本末転倒というほかない。

小島さんが続ける。

「小児科医である私の経験では、生まれてから一度も風邪をひかない赤ちゃんがいる一方、毎月のように発熱を繰り返して受診する赤ちゃんもいます。新生児ですから獲得免疫の差でなく、生まれ持った自然免疫に個人差があると考えられます。

コロナでも自然免疫の個人差で、かかりやすい人、かかりにくい人がいるのではないかと考えています」

コロナは未知のウイルスであり、未解明の点が多い。どんな危険が潜んでいるかわからないのは確かだが、変異を繰り返すなかで無症状の陽性者が増えるなど弱毒化しているのも事実。複数回の感染を前提に、コロナ禍での生活を考えるタイミングに来ている。